

心をよつめる

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。



大切な五つの心

「はい」という素直な心

「すみません」という反省の心

「おかげさまで」という謙譲の心

「させていただきます」という奉仕の心

「有難うございます」という感謝の心

よき心の灯で一隅を照らそう

「一隅を照らす」という言葉をご存知ですか。これは滋賀県にある比叡山延暦寺に天台宗を開かれた伝教大師最澄上人のお言葉です。

令和三年六月四日は、伝教大師が御遷化されてから一千二百年の大遠忌になります。亡くなられてから一千二百年目の御命日です。

「径寸十枚是れ国宝に非ず、一隅を照らす此れ則ち国宝なり」

径寸とは金銀財宝のことで、一隅とは今自分がいる場所や置かれた立場を指しています。

社会の一隅（片隅）に居ながら、社

会を照らす生活をする。その人こそが、なくてはならない国の宝となる人である。伝教大師は、人々を幸せに導くために「一隅を照らす国宝の人材を育てたい」と述べられました。

天台宗では「一隅を照らす運動」として、伝教大師のご精神を現代に生かし、信仰と実践によって一人一人が心豊かな人間になり、平和で明るい世の中を共に築いていこうとその教えをお伝えしています。

「悪事を己に向かえ好事を他に与え、己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」
原文では「忘己利他（もうこりた）」と読みます。

嫌な事、人が嫌がることを自分に迎え入れ、良い事を他人に譲り与える。自分のことは考えず後回しにして、他者相手の事を先ず大切にします。これこそが仏教という慈悲の最も優れた究

極の教えであると、おっしゃっていません。時に私達人間は自己中心的に、自分本位な考え方をしてしまうこともあり。コロナ禍での買い占め騒動などはその顕著な例でしょう。

伝教大師の教えを引き継がれた方の一人が2019年12月4日アフガニスタンで銃撃に倒れた福岡県出身の中村哲医師です。

荒廃したアフガニスタンとパキスタンで「照一隅」の思いで人道復興支援に尽力されました。

「我々は世界中を救うことはできない。身の回りから。」
そのご遺徳を偲ぶ形で西日本新聞が中村医師の生き方と勇気を学ぶウェブサイトを開設しています。

（今いる場所で、自分にできることを一生懸命やりましょう）
一隅とはもしかしたら、あまり目立

たない場所かも知れません。「照らす」とは「光をあてて明るくすること。となりの困っている人のためにやさしく力になってあげること、あなたもまわりの人も明るい気持ちになっていくでしょう。（子ども向けサイトより）



天台宗 東明寺 住職
みえのじんちよう
三重野仁澄さん

「朝は希望に起き 昼は努力に生き 夜は感謝に眠る」



子安大師
昭和の初め、産婆の上岡ハルさんが、1万人の子供を安産で取り上げ、健やかな成長を祈念して奉納された。

天台宗 東明寺
北九州市門司区東門司2丁目9-6
TEL 093-321-7245



伝教大師最澄上人像

「大切な五つの心」で周囲に接しましょう。きつと周りも、自分も光輝けることだと思えます。豊かな心の人が集まれば、平和で明るい社会が実現するに違いありません。

一隅を照らす輪が広がれば世の中もつと暮らしやすくなることでしょう。